

# 平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学科】

【1年次共通】

| 科目番号       | 科目名                | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |   |          |   |           |  |   |   |   |
|------------|--------------------|-----|--|---|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|---|---|---|
|            |                    |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |   |          |   |           |  |   |   |   |
|            |                    |     |  |   | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |   |   |
| 1-1        | 1-2                | 1-3 | 2-1  | 2-2   | 3-1   | 3-2 | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |   |   |   |
| 17UHEC1010 | 初期演習               | 1   | 「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。                         | 1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。<br>2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。<br>3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。<br>4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。 |   |     |     |          |   |          | ◎ |           |  | ◎ |   |   |
| 17UHEC1030 | 情報リテラシー            | 1   | 大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。       | ・ 本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。<br>・ 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。<br>・ レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。                            |   |     |     |          |   |          | ◎ |           |  |   | ◎ |   |
| 17UHEC1020 | Oral Communication | 1   | 「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。                      | 英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して様々な状況での基本的な実用会話ができるようになることを目標とする。  |   |     |     |          |   |          |   |           |  |   |   | ◎ |
| 17UHEC1110 | 生活環境論              | 1   | 身近な生活環境問題について考察を行い、我々の生活様式や考え方といったものが生活環境に密接に結びついていることを知る。また、生活中のモノやデキゴトをどのように意識して捉えているかといった環境観や価値観が生活環境問題を議論する際に重要となることを学習する。 | 生活環境にある疑問や課題を自ら発掘し、将来の研究において自ら問題設定ができる能力を養うことを目的とする。  |   |     | ◎   |          |   |          | ◎ |           |  |   |   |   |
| 17UHEC1140 | 環境共生概論             | 1   | 近年の環境問題への取組みは、流行のような状況となり、エコブームとも呼ばれる。しかし、今はエコとされている活動も、全てが環境問題への解決につながるかは、必ずしもいえないのではないだろうか。環境問題とは、多角的な視点で考察を重ねる必要があるだろう。     | 将来、私たちが暮らす環境において共生ということがなぜ必要なのかを理解する。   |   |     | ◎   |          |   |          | ◎ |           |  |   |   |   |
| 17UHEC1120 | 基礎造形実習             | 1   | 幾何学の基本法則を効果的に用いること。幾何学図形の特徴と構成についての基本法則を身につける。   | イメージやアイデアを形態または立体によって表する方法を学ぶ。  |   |     | ○   |          | ◎ |          | ◎ |           |  |   |   |   |

| 科目番号       | 科目名       | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |   |          |   |           |  |  |
|------------|-----------|-----|---|---|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
|            |           |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |   |          |   |           |  |  |
|            |           |     |   |   | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2       | 1-3 | 2-1   | 2-2   | 3-1   | 3-2 | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |  |
| 17UHEC1150 | C G 基礎実習  | 1   | コンピュータグラフィックス (CG) を利用するにあたり、基本となるソフトPhotoshopとIllustratorの使い方を習得しながら、グラフィックデザインの手法を学びつつ、デザインにおけるプレゼンテーションツールの作成に必要な知識と技能を学ぶ。本科目は、高校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。  | 様々な職業に活かせるグラフィックデザインの基本スキルを身につけるとともに、デザインにおけるプレゼンテーションツール作成のための技術力・表現力を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。  |   |     | ○   |          | ◎ |          | ◎ |           |  |  |
| 17UHEC1130 | 家庭生活論     | 1   | 家庭生活を知らない人はいない。この世に生を受けてから死ぬまでの間、誰でも毎日経験している学問、それが家庭生活である。本来、日常知で済んでいたことをなぜわざわざ大学で学ぶのかと言えば、現代人にとって家庭生活が自明のものではなくなってしまったからだ。家庭生活を支える二本の柱、家族も家屋も、いまや個人が解決しなければならない対象として私たちの前に立ちはだかっている。いわば人間として生きるうえでの戦略的拠点一家庭について理解をふかめることが家庭生活論の目的である。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 次の3つのことを目指す。<br>1. 家庭生活について知ること、即ち、自分自身とは何かを理解すること。<br>2. 個人の人生に必要な物語を身の回りの日常から紡ぎ出す視点を身につけること。<br>3. 家庭生活をデザインし、実践するための技法について考えること。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎   |     |     |          |   |          | ◎ |           |  |  |
| 17UHEC1410 | 現代ファッション論 | 1   | 現在のファッションは偶然に行き着いたのではなく、意図的なコトによって誘導されたものである。そのコトが及ぼしたモノへの影響を学び、今後のファッション生活を考える。  | 現代ファッションの流れを理解し、ファッション生活思考の基礎的な素養を身につける。  | ◎   |     |     |          |   |          |   | ◎         |  |  |
| 17UHEC1520 | 建築概論      | 1   | 我々の身の回りの生活環境を形作っているものを理解し、生活環境の創造にとって重要な建築・都市空間のデザインを様々な視点から読み解きその手法について理解を深めることを目標とする。   | 建築計画の概要をその背景や意義などを含めて理解する。  |   |     | ◎   |          |   |          | ◎ |           |  |  |
| 17UHEC1550 | 近代建築論     | 1   | 現代建築の基盤となった近代建築について、時代背景に対する建築家の生き方を学び、その理念・方法を視点に、主要作品の特徴を理解する。  | 近代建築はいつ、どこから始まりどのような課題を持っていたのだろうか。また、インテリア・建築のデザインが、文化や社会における価値を保つには、どのような条件を必要とするのだろうか。これらの問いに対する答として、建築家の理念・方法（考え方）と作品の特質を理解することを目標とする。                                       | ◎   |     |     |          |   |          | ◎ |           |  |  |
| 17UHEC1220 | 消費科学      | 1   | 「消費科学」は生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える科学である。この科目はテキスタイルアドバイザーの資格科目であるので、衣生活の面を中心に消費を考え、生活者として、またアパレル分野で活躍する際に必要な考え方と知識を体系的に身につける。   | 衣生活を中心として消費者が望む品質を知り、消費者行動を理解する。また、繊維製品の生産・流通・消費についての一連の基礎的知識を修得する。   |   |     | ◎   |          |   |          | ◎ |           |  |  |

| 科目番号       | 科目名              | 学年 | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |     |          |     |           |     |   |  |   |  |   |
|------------|------------------|----|---|--|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|---|--|---|--|---|
|            |                  |    |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |     |          |     |           |     |   |  |   |  |   |
|            |                  |    |   |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |   |  |   |  |   |
|            |                  |    |   |  | 1-1   | 1-2 | 1-3 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |   |  |   |  |   |
| 17UHEC1210 | 消費生活論            | 1  | 高度情報化、消費のサービス化、グローバル化など社会経済情勢の著しい変化に伴い、多様化、複雑化する消費者問題の現状と課題を知り「消費者市民社会」の担い手としての資質を修得することを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。      | 安全で快適な真に豊かな消費生活を営む能力・知識を得ることと併せ、社会の発展と改善に積極的に関与できるような「考え、行動する自立した消費者」としての資質を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。                                  | ◎   |     |     |          |     |          | ◎   |           |     |   |  |   |  |   |
| 17UHEC1310 | 生活科学             | 1  | 生活環境学科での学習において必要となる基礎的な科学的知識の習得を目的とし、科学的な視点で生活環境中の様々な現象を捉える能力を養うことを目指す。   | 今後の専門科目の学習や研究で必要となる数学、化学、物理の基礎的な知識について習得することを目標とする。  |   | ◎   |     |          |     |          | ◎   |           |     |   |  |   |  |   |
| 17UHEC1320 | 生活科学演習           | 1  | 実験を含む演習を行い、これからの4年間に生活環境学科で学ぶために必要な科学的基礎的な知識・技術や心構えを体得するとともに、科学的事象について考察を加えてまとめる能力を身につける。   | 現象を科学的に考え、定量的にとらえる能力を修得する。科学や数学の基礎知識について演習をとおして学ぶとともに、基本的な器具の取扱いや試薬の調製などの実験に関する技能を身につける。   |   |     | ○   |          | ◎   |          | ◎   |           |     |   |  |   |  |   |
| 17UHEC1430 | 服飾デザイン論          | 1  | 今日の服装は多様化し個性化が求められている。服飾デザイン論では衣服をデザインする側、またそれを選択する側として、服飾デザインの基礎を系統的に幅広い観点から学ぶ。また衣服の主流を占めているアパレル製品のデザインについても理解を深める。  | 学生は服飾デザインに関して3つの目標到達に取り組む。<br>1. 服飾デザインにおける用と美の融合を分析し、美的な側面を認識する能力を獲得する。<br>2. 造形要素やディテールに関する知識を習得する。<br>3. 服飾デザイン・企画に関するファッションビジネスの基礎的知識を習得する。                |   |     |     |          |     |          |     |           | ◎   |   |  |   |  |   |
| 17UHEC1420 | アパレルコンストラクション    | 1  | 最も身近な生活環境を作り出す衣服について、人間にとって着心地の良い衣服とは何かという理念を持って、種々の観点から衣服の構造の原理を学び、衣服設計における基礎的知識と共に応用能力を養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | この科目は生活環境学科を学ぶ上で3コース共通科目であり、専門科目として広い視点からアパレル全般について学び、毎日着用している衣服について専門的立場から分析ができるようになることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。                  |   |     |     |          |     |          |     |           | ◎   |   |  | ◎ |  |   |
| 17UHEC1440 | アパレルコンストラクション実習I | 1  | 人体を被う衣服の一連の製作過程を学び、被服構成の知識や技術を修得する。またこれらを活用発展させる能力、時代の持つファッション性や美的感性、さらに既製衣料の選択眼も養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。         | 原型を使用した衣服パターンの作図と衣服の組み立て工程の理解、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性への理解、基礎縫製技術、縫製実習にかかわる機器類（工業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用が習得ができることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 |   |     |     |          |     |          |     |           |     | ○ |  | ◎ |  | ◎ |





| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |  |           |   |  |   |   |  |   |  |
|------------|------------|-----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|--|-----------|---|--|---|---|--|---|--|
|            |            |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |  |           |   |  |   |   |  |   |  |
|            |            |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |  |   |   |  |   |  |
| 1-1        | 1-2        | 1-3 | 2-1   | 2-2   | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |  |           |   |  |   |   |  |   |  |
| 17UHES4540 | 景 観 論      | 4   | 景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を習得すること。また日本各地や世界各国の景観や街並みを紹介していくことで、建築物だけでなく都市環境のデザインや街づくりへ視野を広げる。   | 風景、景色、景観という視点から生活や建築を理解できるようにする。  | ◎   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |   |  |   |  |
| 17UHES3590 | ま ち づ くり 論 | 3   | 「まちづくり」は、近年、市民や地域も主体となって参画・連携する意義が増してきている。しかし、それぞれの「まち」の特性や状況によってその取り組みはさまざまであり、「まちづくり」はまずその「まち」を知ることが重要であるといえる。本授業では、まちづくりとは何かを習得するとともにその理解を深め、まちづくりを実践し得る力を養うことを目標とする。      | まちづくりの意義を理解し、まちづくりを実践し得るスキルを身につける。  | ◎   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |   |  |   |  |
| 17UHES2170 | 生活デザイン論    | 2   | 学生は講義を通じて、生活を営む上で必要な要素としてのモノ・行為を取り出すとともに、それらを可能にする生活デザインの特性と機能について考える。  | 学生は講義を通じて次の2つの目標到達に取り組む。<br>1. 学生はモノ（ものづくり）のデザインとコト（仕組み）のデザインが生活の中で果たす役割を知る。<br>2. そのうえ、優れたデザインの特徴とは何かを考え、生活デザインの企画実践につなげる基本的素養とする。 |   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |   | ◎ |  |   |  |
| 17UHES3150 | 生 活 美 学    | 3   | 日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。                     | 総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。           | ◎   |     |          |     |          |  |           | ◎ |  |   |   |  |   |  |
| 17UHES2120 | 生活文化演習Ⅰ    | 2   | 身近な生活の中で、役立つ優れたデザインについて考える。   | 学生はデザインを構成するさまざまな要素を発見し、分析し、優れたデザインの美的構造を理解する。  | ○   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |   | ◎ |  |   |  |
| 17UHES2125 | 生活文化演習Ⅱ    | 2   | 暮らしの中のモノについて理解を深める。そのために、普通の暮らしの中で実際に使われた生活財の背景にある生活文化を読み解く。また、近現代の名作といわれる家具・プロダクト製品について、その時代背景と作者の意図を読み解く。   | 暮らしの中で使われたモノおよび近現代の名作といわれるモノについて、ある目的に対して調査・分析をおこなう方法を修得する。さらに、そこから得た結果を考察し、自己の考えをまとめ、それらについて記述する方法を修得する。                           |   |     |          |     |          |  | ○         |   |  | ◎ |   |  | ◎ |  |
| 17UHES3120 | 生活文化演習Ⅲ    | 3   | 生活文化を読み解くには様々な方法論が存在するが、その中で最も一般的かつ基本的な手法といえるのが、モノやコトの歴史を知ること、つまり、対象となるモノやコトの変化を時系列に並べ、何が変化し、何が変化していないかを調査によって明らかにしていくことである。この授業ではその手法の習得だけでなく、対象となるモノやコトに対し新たな知見を得ることを目的とする。 | 生活文化における情報の収集、整理、分析に必要な技術を習得することを目標とする。   | ○   |     |          |     |          |  |           |   |  | ◎ |   |  | ◎ |  |



| 科目番号       | 科目名         | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |  |          |   |           |  |  |  |  |  |  |
|------------|-------------|-----|--|--|---|-----|-----|----------|--|----------|---|-----------|--|--|--|--|--|--|
|            |             |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |  |          |   |           |  |  |  |  |  |  |
|            |             |     |  |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |  |  |  |  |
| 1-1        | 1-2         | 1-3 | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES4140 | 調理学実習       | 4   | 食品の調理特性を理解し、調理操作を行い、栄養・嗜好を考慮した食品の組み合わせによる食事の提供、食品衛生学的な取り扱い方法、作業の能率化、供食形態、食卓準備等を考え、健康的で楽しい食生活が計画できることを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 適切な調理操作を習得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。  |   | ○   |     | ◎        |  | ◎        |   |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES4210 | ファッションビジネス論 | 4   | ファッションビジネスの構造を学び、そこに存在するファッションビジネス特有の機能を理解する。  | ファッションビジネスの機能を理解し、日々変化するアパレル業界への対応力を身につける。   | ◎   |     |     |          |  |          | ◎ |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES3210 | マーケティング論    | 3   | マーケティング論は、「企業」と「顧客」の間における「商品」と「貨幣」の交換というコミュニケーションによって世界が構成されるという世界観である。この考え方を身につけるとともに、マーケティング論では何が語れ、何が語れないかを理解する。  | マーケティングの考え方を理解し、具体的な事例を知る。   | ◎   |     |     |          |  |          | ◎ |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES4340 | 品質管理        | 4   | グローバル化が進む今日、品質やその要求水準は多様化される傾向が強くなってきた。ここでは企業における品質管理の重要性を認識し、基礎的な品質管理の進め方、およびその手法についての理解を深めるとともに、アパレル産業における品質管理の骨格を知る。  | 現代、品質管理はどのように行われているのか、その手法を知るとともに、アパレル製品が製造流通段階を経て消費者の手にもたすまでに、企業の各部門でどのように品質管理が行われているかを理解する。また、繊維製品のクレーム事例をもとに、品質管理の問題点について考える。       |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES2320 | 界面科学        | 2   | 衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。  | 洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。  |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES2330 | アパレル科学基礎演習  | 2   | 今後学んで行くアパレル科学の分野に関して、そのアプローチの手法を、界面科学の分野を学びながら、自ら考え、手を動かす、その後まとめて発表することにより体得する。  | アパレル科学の分野を学ぶための、論理的思考力、応用力、プレゼンテーション能力（発言力や書く力）を実験を含む演習を通じて身につける。また、洗浄や洗浄に係る事象の本質的な理解に至ることを目標とする。                                      |   | ○   |     | ◎        |  |          | ◎ |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES2310 | 繊維学         | 2   | 衣服素材である繊維がデザインや被服の機能に与える影響は大きい。快適な衣生活のためには、繊維素材の種類や性能を理解し、使用目的にあった素材の選択が出来る教養を身につけ、制作、取り扱いなどに役立つ幅広い資質を養う。  | 衣服を構成している素材である“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、実生活の中で役立たせることを目標としている。  |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |  |  |  |  |  |  |
| 17UHES2340 | 繊維製品材料学     | 2   | 被服やインテリア製品に要求される消費性能を把握し、糸、布、その他の被服材料に関して、製造プロセス、性能などの基礎的知識を取得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。   | 繊維製品の織物や編み物、その他二次製品の組織や物理的性能を理解し、適材適所に応じて活用が出来る能力を養い、無駄な消費を慎み、豊かで快適な生活が送れることに寄与することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |  |  |  |  |  |  |



| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |   |          |   |           |  |  |
|------------|---------------|-----|--|--|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
|            |               |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |   |          |   |           |  |  |
|            |               |     |  |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 1-3 | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |  |  |
| 17UHES4320 | 繊維製品材料学実験     | 4   | 「繊維学」や「繊維製品材料学」で学んだ繊維、糸、布の構造や形態、特性や性能について、実験をとおして実際に視覚的に体験することで、繊維材料の知識をさらに深め、快適な衣生活に必要な実践的能力を身につける。また、テキスタイルアドバイザーとして活躍をする場合に、必要となる試験の原理と測定方法の習得も目的とする。         | 繊維製品に使用されている糸や布の構造や特性に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で実施および応用ができる能力を養う。  |   | ○   |     |          | ◎ | ◎        |   |           |  |  |
| 17UHES3310 | 衣 環 境 学       | 3   | 衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものである。ここでは、温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とする。  | 人はなぜ衣服を着るのか。衣服に何を求めるのか。若い女性にとっては特に、色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。ここでは、衣服を人間の最も身近な環境として捕らえ、心地よい衣服を考え、衣生活において実践できる能力を育成することを目標とする。 |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |  |  |
| 17UHES4310 | 染 色 加 工 学     | 4   | テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。 | なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。   |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |  |  |
| 17UHES4350 | 衣 料 分 析 法     | 4   | 身の回りにある衣料品は、性能を向上させるため改良改質され、さまざまな試験に合格したものである。その過程においても顧客からのクレーム処理においても、迅速・正確な分析が必要とされている。汎用の分析機器全般について理解力と応用力を養成することを目的とする。                                    | 科学的見地からクレーム処理、商品開発を担い得る基礎学力とデータの解析力を身につけることを目標とする。   |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |  |  |
| 17UHES4330 | 新 機 能 材 料 学   | 4   | 生活環境の快適性や利便性の向上のため、最近いろいろな機能性材料が開発され生活での利用が進んでいる。これらの機能性材料の創製の歴史や背景、機能の有用性について理解することを目的とする。  | 新しい発想によるモノづくりや、より高度な応用力を培うことを目標とする。  |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |  |  |
| 17UHES4420 | アパレル設計生産論     | 4   | 量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。   | 既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。  |   |     |     | ◎        |   |          | ◎ |           |  |  |
| 17UHES3320 | インテリアテキスタイル概論 | 3   | 我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身に付け、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。                                  | 我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身に付け、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。              |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |  |  |



| 科目番号       | 科目名     | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |   |           |  |  |  |
|------------|---------|-----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|--|--|--|
|            |         |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |   |           |  |  |  |
|            |         |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |  |
| 1-1        | 1-2     | 1-3 | 2-1   | 2-2   | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |   |           |  |  |  |
| 17UHES3580 | 建築法規    | 3   | 秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。                             | 都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。           | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES3550 | 都市デザイン論 | 3   | 日常生活や企業活動の舞台となる都市空間の構成、制度的枠組み、デザイン手法などについて、とりわけ個々の建築物と都市空間との相互関係について理解を深めること。   | 都市とは何か、そのデザインとは何かを理解する。   | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES4510 | 造園学・同演習 | 4   | 世界的にも評価の高い日本庭園という芸術の裏に秘められた深い思想と実用性を理解し、現代における環境共生デザインへの応用を試みる。   | 造園計画・設計の基本を身につける。デザイン批評をする目を養う。コンセプトを明解に伝えるプレゼンテーション技術と文章力を身につける。             |   |     |          | ◎   |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES4520 | 測量実習    | 4   | 測量は、家作り、街作りの様々な分野で使われており、建築では設計、施工、維持管理の各段階で出会う。そこで測量を講義、実習を通して基礎から体系的に学び、また都市計画・防災・マーケティング等の分野に使われているGIS（地理情報システム）や衛星画像を用いたリモートセンシングについても習得することを目的とする。 | 学生が測量器械で得たデータのパソコン解析・GIS・リモートセンシングなどを通して、建築・都市計画に必要な測量基礎的知識および技術とその利活用法を習得する。 |   |     |          | ◎   |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES3530 | 構造力学Ⅰ   | 3   | 建築物の設計において最も基礎となる、構造物の力学に関する理論を基礎から体系的に理解する。  | 建築設計における力学的な考え方の基礎を習得する。  |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES3540 | 構造力学Ⅰ演習 | 3   | 「構造力学Ⅰ」で習得する構造物の力学に関する理論を、例題の解説と演習問題を解くことでより深く理解する。   | 建築設計において必要な力学的な考え方を習得するための演習問題を自力で解けること。                                      |   | ○   |          | ◎   |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES2520 | 建築一般構造Ⅰ | 2   | 3つの主要な構造（木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造）を中心に建築物の骨組みや仕上げの構成について基本的な知識を習得する。   | 建築に関する用語を学び、建築全般に対して幅広く理解する。  |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES4530 | 建築一般構造Ⅱ | 4   | 建築物の一般的な成り立ち（重力や地震力に抗して建っている原理）と、架構形式と建築造形の関連を理解する。   | 多様な各種の架構方式の基本原則と、それによって形作られる構造物の造形との関係を理解することを目標とする。                          |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES2350 | 建築材料学   | 2   | 建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。  | 建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。                                  |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHES3570 | 建築施工    | 3   | 住宅工事の発注から完成に至るまでの、各段階の内容について、そのあらましを解説し、一連の住宅施工の流れを理解する。  | 住宅建築（主に木造・鉄筋コンクリート造）に関する、企画～施工～竣工～維持管理までの流れおよび管理ポイントについて理解させる。                |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |   |          |   |           |   |  |   |
|------------|------------|-----|---|--|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|--|---|
|            |            |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |   |          |   |           |   |  |   |
|            |            |     |   |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |   | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |  |   |
| 1-1        | 1-2        | 1-3 | 2-1   | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1 | 4-2      |   |          |   |           |   |  |   |
| 17UHES2110 | 人間工学       | 2   | 本授業の目標は、私達が日常生活して行く上で最も身近な道具や設備、環境等と人間との間に存在する諸条件を学び、それらの関係がより適正に結びつく条件を導き出すことにある。さらに、消費者としてモノ選びの際に、人間工学の視点から人とモノとの関係を正しく見つめる能力を養う。 | 人間工学の視点からデザインでき、更に消費者として適切なモノを選ぶことができる。  |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |   |  |   |
| 17UHES2160 | 人間工学実験     | 2   | 人間工学分野で用いられる手法を学び、人間と環境の関わりを心理生理学的視点から捉える力を養うとともに、生活環境の物理的要素と人間との関わりについて実験を通して学ぶ。   | 人間をとりまく様々な道具や空間を対象にし、人間工学の分野で用いられる代表的な測定手法を習得する。人間工学の視点から快適で安全な道具や空間・環境をデザインできる。               |   | ○   |     |          | ◎ | ◎        |   |           |   |  |   |
| 17UHES3110 | 環境工学       | 3   | 室内環境を人間の心理生理から捉えるとともに、快適で機能的な住まいのあり方を理解する。  | 住まいの計画にあたり重要となる環境工学の考え方を理解することを目標とする。  |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |   |  |   |
| 17UHES3160 | 環境工学実験     | 3   | 環境四要素「光」「音」「熱」「空気」からテーマを設定し、生活環境の物理的要素と人間との関わりについて実験を通して学ぶ。   | 生活環境を客観的に捉える手法を身につけることを到達目標とする。  |   | ○   |     |          | ◎ | ◎        |   |           |   |  |   |
| 17UHES4560 | 建築設備       | 4   | 建築内部とその近傍の環境を適切に整え、建築内部の人間の活動を支援する建築設備について、その原理や構成を理解する。  | 建築において、メカニカルな方式や自然を活用する方式やなどを用いて室内環境を整える種々の方法とその原理についての知識を習得することを目標とする。                        |   | ◎   |     |          |   | ◎        |   |           |   |  |   |
| 17UHES2020 | 海外の生活環境研修Ⅱ | 2   | 国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身に付けることは必至である。本科目では、ヨーロッパでの建築やインテリアおよびファッションの研修に加えてヨーロッパ諸国の歴史や生活文化に触れて国際的な知識・感覚を深めることを目的とする。                  | グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。 |   |     |     |          |   |          |   |           |   |  | ◎ |
| 17UHES3910 | 卒業基礎演習     | 3   | 4年次の卒業研究を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。  | 卒業研究の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。  |   |     |     |          |   | ◎        | ◎ | ◎         | ◎ |  |   |
| 17UHES4910 | 卒業研究       | 4   | 大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。   | 情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身に付ける。  |   |     |     |          |   | ◎        | ◎ | ◎         | ◎ |  |   |

# 平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学科】

【アパレルコース】

| 科目番号       | 科目名      | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |   |           |  |  |   |   |
|------------|----------|-----|---|--|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|--|--|---|---|
|            |          |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |   |           |  |  |   |   |
|            |          |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |   |   |
| 1-1        | 1-2      | 1-3 | 2-1   | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |   |           |  |  |   |   |
| 17UHEA2010 | 生活環境英語Ⅰ  | 2   | 英語で書かれた生活環境学に関する専門書、広告、新聞、雑誌などの内容を理解できる能力やコンピュータ関連の基礎英語力を養うため、平易な教材を用いて、語彙を増やしながらか、英語に慣れ、努力すれば和訳が確実にできる力を修得することを目指す。            | 学生は以下の3点の目標達成に取り組む。<br>1. 専門領域の英文記事を理解するために必要な語学力を強化する。<br>2. 専門領域に関する通信などに対応するための英文構成の基礎を確認する。<br>3. グローバルな視点とは何か、認識を深める。 |   |     |          |     |          |   |           |  |  | ◎ |   |
| 17UHEA2030 | 生活環境英語Ⅱ  | 2   | 英語で書かれた様々な文章を読むことにより、総合的な読解力を養うことを目的とする。語彙や表現方法を増やし、英文の構造について理解するとともに、日本と英語圏の文化的背景や生活観の相違などについての考察も行う。                          | 論説、記事、小説、論文などの様々なジャンルの英文について、どのような概要が書かれているか一読して把握できる読解力を養うことを目的とする。   |   |     |          |     |          |   |           |  |  |   | ◎ |
| 17UHEA4170 | 福祉生活環境概論 | 4   | 高齢者が慣れた生活環境で住み続け人間的な自立生活を送るために、住環境の整備が今や社会全体の課題となってきた。本講では生活者の視点に立ってあらゆる人達の暮らしを生活の拠点としての住環境という側面から取り上げ、安全・安心で健康的な住環境のあり方について学ぶ。 | 安全・安心で健康的な人間らしい自立生活を送れる環境づくりを考える能力を養う。   |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |   |
| 17UHEA2120 | 色彩学      | 2   | 色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。  | 色と光を科学的に捉える力をつける。日常的な生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および、表色値から色を想像できるようになることが到達目標である。                                    |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |   |
| 17UHEA3430 | 日本服飾史    | 3   | 日本における古代から現代までの服飾の様式と特徴を理解する。服飾の歴史は人間の生活の歴史でもあるため、衣服という身近な存在をとおして、自分がどのような文化的背景をもっているかを学び、人間の生活の理解を深める。                         | 服飾の歴史を学ぶことによって、日本社会の特徴や文化的な特質について理解を深める。また、文字資料や図像資料の扱いを学び、資料の検索や収集の方法を身につける。  |   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |   |
| 17UHEA4530 | 世界建築史    | 4   | 世界の建築について、その時代、地域の特色と、時間的な展開（歴史）や空間的な拡がり（地理）の概要を理解することを目的とする。   | それぞれの地域や時代による構造や意匠の特徴、あるいはそれらの共通点について理解する。   |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |   |
| 17UHEA2510 | 日本建築史    | 2   | 日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特色について理解することを目的とする。  | 日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。   |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |   |
| 17UHEA3520 | 現代建築論    | 3   | 伝統と新しさ、生活ともの、行為と形態など多角的視点から、建築をめぐる空間表現についての考えを深める。  | 美が人を感動させる「目的」を持っているとすると、機能と美の境界線はどこにあるのだろう。また、人の生活と、ものや建築が調和しているとはどういうことだろう。   |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |   |

| 科目番号       | 科目名     | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |  |           |   |  |  |  |
|------------|---------|-----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|--|-----------|---|--|--|--|
|            |         |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |  |           |   |  |  |  |
|            |         |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |  |  |  |
| 1-1        | 1-2     | 1-3 | 2-1   | 2-2   | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |  |           |   |  |  |  |
| 17UHEA4510 | 景 観 論   | 4   | 景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を習得すること。また日本各地や世界各国の景観や街並みを紹介していくことで、建築物だけでなく都市環境のデザインや街づくりへ視野を広げる。   | 風景、景色、景観という視点から生活や建築を理解できるようにする。  | ◎   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |  |  |
| 17UHEA3530 | まちづくり論  | 3   | 「まちづくり」は、近年、市民や地域も主体となって参画・連携する意義が増してきている。しかし、それぞれの「まち」の特性や状況によってその取り組みはさまざまであり、「まちづくり」はまずその「まち」を知ることが重要であるといえる。本授業では、まちづくりとは何かを習得するとともにその理解を深め、まちづくりを実践し得る力を養うことを目標とする。          | まちづくりの意義を理解し、まちづくりを実践し得るスキルを身につける。  | ◎   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |  |  |
| 17UHEA4160 | 生活デザイン論 | 4   | 学生は講義を通じて、生活を営む上で必要な要素としてのモノ・行為を取り出すとともに、それらを可能にする生活デザインの特性と機能について考える。  | 学生は講義を通じて次の2つの目標到達に取り組む。<br>1. 学生はモノ（ものづくり）のデザインとコト（仕組み）のデザインが生活の中で果たす役割を知る。<br>2. そのうえ、優れたデザインの特徴とは何かを考え、生活デザインの企画実践につなげる基本的素養とする。 |   |     |          | ◎   |          |  |           | ◎ |  |  |  |
| 17UHEA3110 | 生活美学    | 3   | 日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。                         | 総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。           | ◎   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |  |  |
| 17UHEA4110 | 家庭工学    | 4   | 家庭工学とは、家庭において工業技術の恩恵を受けている事やものを対象とした科目である。我々は、様々な道具や機械によって快適な家庭生活を送ることができている。それらを正しく、有効に使えるよう、原理から学び、機械類に強くなることをめざす。本科目は、高校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 家庭で使われる電気や機械や道具に関して、原理や意味を把握して使えるようになることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。   |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |   |  |  |  |
| 17UHEA4120 | 食 物 学   | 4   | 食物の栄養成分が私たちの生命活動の維持や健康の保持に対してどのように関与し、なぜ食物の適切な摂取が必要であるかについて理解し、また健全な食生活を営むための基礎的な知識も修得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。                            | 学生は、食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防が図れるように栄養の役割について理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。                                   |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |   |  |  |  |

| 科目番号       | 科目名         | 学年 | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |     |           |     |     |  |  |  |  |
|------------|-------------|----|---|--|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|-----|--|--|--|--|
|            |             |    |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |     |           |     |     |  |  |  |  |
|            |             |    |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |     |  |  |  |  |
|            |             |    |   |  | 1-1   | 1-2 | 1-3      | 2-1 | 2-2      | 3-1 | 3-2       | 4-1 | 4-2 |  |  |  |  |
| 17UHEA4130 | 保育学         | 4  | 子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会的知識を身に付ける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力量を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。                                     |   | ◎   |          |     |          |     | ◎         |     |     |  |  |  |  |
| 17UHEA4150 | 調理学実習       | 4  | 食品の調理特性を理解し、調理操作を行い、栄養・嗜好を考慮した食品の組み合わせによる食事の提供、食品衛生的な取り扱い方法、作業の能率化、供食形態、食卓準備等を考え、健康的で楽しい食生活が計画できることを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 適切な調理操作を習得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。  |   | ○   |          | ◎   |          |     | ◎         |     |     |  |  |  |  |
| 17UHEA2210 | ファッションビジネス論 | 2  | ファッションビジネスの構造を学び、そこに存在するファッションビジネス特有の機能を理解する。   | ファッションビジネスの機能を理解し、日々変化するアパレル業界への対応力を身につける。   | ◎   |     |          |     |          |     | ◎         |     |     |  |  |  |  |
| 17UHEA3210 | 消費者調査法演習    | 3  | 消費者調査を行なうということは、単に誰が何を買っているかを調べるのではなく、その裏にどのような動機や社会背景があるかを探ることでもある。ここでは、消費者調査の様々を学んだ後、実際に考現学調査、調査票調査、インタビュー調査を実施、分析、発表することを目的とする。                                      | 衣服に関する調査を行い、分析をする。   |   |     |          |     | ◎        |     | ◎         |     |     |  |  |  |  |
| 17UHEA3220 | マーケティング論    | 3  | マーケティング論は、「企業」と「顧客」の間における「商品」と「貨幣」の交換というコミュニケーションによって世界が構成されるという世界観である。この考え方を身につけるとともに、マーケティング論では何が語れ、何が語れないかを理解する。   | マーケティングの考え方を理解し、具体的な事例を知る。   | ◎   |     |          |     |          |     | ◎         |     |     |  |  |  |  |
| 17UHEA3360 | 品質管理        | 3  | グローバル化が進む今日、品質やその要求水準は多様化される傾向が強くなってきた。ここでは企業における品質管理の重要性を認識し、基礎的な品質管理の進め方、およびその手法についての理解を深めるとともに、アパレル産業における品質管理の骨格を知る。   | 現代、品質管理はどのように行われているのか、その手法を知るとともに、アパレル製品が製造流通段階を経て消費者の手にとれるまでに、企業の各部門でどのように品質管理が行われているかを理解する。また、繊維製品のクレーム事例をもとに、品質管理の問題点について考える。 |   | ◎   |          |     |          |     | ◎         |     |     |  |  |  |  |
| 17UHEA2320 | 界面科学        | 2  | 衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。   | 洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。  |   | ◎   |          |     |          |     | ◎         |     |     |  |  |  |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年 | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |     |          |     |           |     |  |  |  |  |  |
|------------|------------|----|--|--|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|--|--|--|--|
|            |            |    |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |     |          |     |           |     |  |  |  |  |  |
|            |            |    |  |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |  |  |  |  |  |
|            |            |    |  |  | 1-1   | 1-2 | 1-3 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |  |  |  |  |  |
| 17UHEA2330 | アパレル科学基礎演習 | 2  | 今後学んで行くアパレル科学の分野に関して、そのアプローチの手法を、界面科学の分野を学びながら、自ら考え、手を動かし、その後まとめて発表することにより体得する。  | アパレル科学の分野を学ぶための、論理的思考力、応用力、プレゼンテーション能力（発言力や書く力）を実験を含む演習を通じて身につける。また、洗浄や洗浄に関係する事象の本質的な理解に至ることを目標とする。  |   | ○   |     | ◎        |     | ◎        |     |           |     |  |  |  |  |  |
| 17UHEA2310 | 繊維学        | 2  | 衣服素材である繊維がデザインや被服の機能に与える影響は大きい。快適な衣生活のためには、繊維素材の種類や性能を理解し、使用目的にあった素材の選択が出来る教養を身につけ、制作、取り扱いなどに役立つ幅広い資質を養う。  | 衣服を構成している素材である“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、実生活の中で役立たせることを目標としている。  |   | ◎   |     |          |     | ◎        |     |           |     |  |  |  |  |  |
| 17UHEA2350 | 繊維科学実験     | 2  | 「繊維学」「繊維製品材料学」で学んできた知識を実験を通してより明確なものにする。また、実験方法を工夫・実行し、物の考え方を学び、レポートにまとめることは、日常の勉学においても有意義であり、実験の意義は大きい。   | 被服材料である繊維について、性質や適性を実験によって観察し、物事や現象の本質を理解する。   |   | ○   |     | ◎        |     | ◎        |     |           |     |  |  |  |  |  |
| 17UHEA2340 | 繊維製品材料学    | 2  | 被服やインテリア製品に要求される消費性能を把握し、糸、布、その他の被服材料に関して、製造プロセス、性能などの基礎的知識を取得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。                                   | 繊維製品の織物や編み物、その他二次製品の組織や物理的性能を理解し、適材適所に応じて活用が出来る能力を養い、無駄な消費を慎み、豊かで快適な生活が送れることに寄与することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。       |   | ◎   |     |          |     | ◎        |     |           |     |  |  |  |  |  |
| 17UHEA3310 | 繊維製品材料学実験  | 3  | 「繊維学」や「繊維製品材料学」で学んだ繊維、糸、布の構造や形態、特性や性能について、実験をとおして実際に視覚的に体験することで、繊維材料の知識をさらに深め、快適な衣生活に必要な実践的能力を身につける。また、テキスタイルアドバイザーとして活躍する場合に、必要となる試験の原理と測定方法の習得も目的とする。          | 繊維製品に使用されている糸や布の構造や特性に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で実施および応用ができる能力を養う。  |   | ○   |     | ◎        |     | ◎        |     |           |     |  |  |  |  |  |
| 17UHEA3340 | 衣環境学       | 3  | 衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものである。ここでは、温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とする。  | 人はなぜ衣服を着るのか。衣服に何を求めるのか。若い女性にとっては特に、色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。ここでは、衣服を人間の最も身近な環境として捕らえ、心地よい衣服を考え、衣生活において実践できる能力を育成することを目標とする。 |   | ◎   |     |          |     | ◎        |     |           |     |  |  |  |  |  |
| 17UHEA3320 | 染色加工学      | 3  | テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。 | なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。   |   | ◎   |     |          |     | ◎        |     |           |     |  |  |  |  |  |



| 科目番号       | 科目名              | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |   |           |  |   |   |
|------------|------------------|-----|--|--|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|--|---|---|
|            |                  |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |   |           |  |   |   |
|            |                  |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |   |   |
| 1-1        | 1-2              | 1-3 | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |   |           |  |   |   |
| 17UHEA3330 | 染色加工学実験          | 3   | テキスタイルアドバイザーとしても必要な、繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わることを、本質的な理解につながるよう、実験を通して学ぶ。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。   | なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。                                 |   | ○   |          | ◎   |          | ◎ |           |  |   |   |
| 17UHEA3370 | 衣料分析法            | 3   | 身の回りにある衣料品は、性能を向上させるため改良改質され、さまざまな試験に合格したものである。その過程においても顧客からのクレーム処理においても、迅速・正確な分析が必要とされている。汎用の分析機器全般について理解力と応用力を養成することを目的とする。  | 科学的見地からクレーム処理、商品開発を担い得る基礎学力とデータの解析力を身につけることを目標とする。   |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |   |   |
| 17UHEA3350 | 新機能材料学           | 3   | 生活環境の快適性や利便性の向上のため、最近いろいろな機能性材料が開発され生活場での利用が進んでいる。これらの機能性材料の創製の歴史や背景、機能の有用性について理解することを目的とする。   | 新しい発想によるモノづくりや、より高度な応用力を培うことを目標とする。  |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |   |   |
| 17UHEA4310 | テキスタイルアドバイザー実習   | 4   | テキスタイルアドバイザーとして、どのように活躍できるかについて、学外実習を通じて実社会の現状を体得し、自覚を深めるとともに視野を広めていく。   | 1級TAの資格取得者として、社会でどのように活躍できるかの理解を深めることを目標とする。   |   |     |          |     |          |   |           |  | ◎ | ◎ |
| 17UHEA2420 | アパレルコンストラクション実習Ⅱ | 2   | 身体を包む衣服の造形について、アパレルコンストラクション実習Ⅰで行ったことを発展させ、縫製の基礎理論や造形技術を習得し、さらに応用能力を養うことを目的とする。  | アパレルコンストラクション実習Ⅰに続き、基本的な服種（アイテム）の服作りを通じて、服飾全般の知識と技術を身につけることを到達目標とする。                               |   |     | ○        |     | ◎        |   | ◎         |  |   |   |
| 17UHEA2440 | アパレル企画論          | 2   | アパレル業界における商品企画について、具体的な進め方、要点を事例の紹介や演習などを交えて、現実のアパレル商品企画を習得する。   | アパレル業界での、新規ブランド企画、商品企画、およびセールスプロモーション企画の基礎知識の習得。   |   |     | ◎        |     |          |   | ◎         |  |   |   |
| 17UHEA2410 | スタイル画実習          | 2   | スタイル画は、デザインを行うための作業ではなく、アパレルメーカーのあらゆるシーンで必要となるものである。例えば、「カタログ」等へは、ファッションスタイル画であり、「企画表」、「展示会受注ブック」といった資料作成のうえでは、ハンガーイラストといったものを描くことが、必要となる。スタイル画を学ぶことは、衣服表現の幅を広げられることにつながり、また、それらを読み取る力ともなる。以上のように、この科目では、2次元でのファッションデザインの表現が行えるよう、人体プロポーション、着装方法、ハンガーイラスト等を学びとることを目的とする。 | 人体ポーズの理解を含め、人が着て美しいと思う要素は何であるか、また、そのために出来る表現とは何であるかを学びとり、最終的には、デザイン行為を含めた、自由なファッションスタイル画を描けるようにする。 |   |     |          |     |          |   | ◎         |  | ◎ |   |



| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |   |           |  |  |  |
|------------|---------------|-----|--|--|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|--|--|--|
|            |               |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |   |           |  |  |  |
|            |               |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 1-3 | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |   |           |  |  |  |
| 17UHEA3410 | ファッションデザイン演習  | 3   | ファッションデザインという行為について考える。ファッションデザインとは、スタイル画の中だけで行う行為ではなく、実際にモノをどう観て、どう形に整えていくのかという総合的な行為である。その表現方法として、シーチングでジャケットを一着縫い上げる。そのモデルの基本の考えとなるものは、情報である。収集した情報を基に、春夏のジャケットを提案する。この流れを具体的にこなしていき、「ファッションデザインとは？」の答えを導き出す。 | ファッション情報収集の方法をつかみ、そこからデザインへの導き方を習得する。また、それらを具体的な形にする方法として、パターン・縫製があることを理解する。結果、アパレル産業の機能の理解へとつなげ、ファッション産業をより深く理解できるようにする。                                |   |     | ○        |     | ◎        |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEA2430 | アパレル設計生産論     | 2   | 量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。   | 既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。  |   |     | ◎        |     |          |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEA3420 | アパレル生産実習A     | 3   | アパレルの工業生産における商品企画・設計・生産・品質評価・プレゼンテーションの各業務について、実習を通して理解を深め、分業体制でのコミュニケーション能力を身につける。  | アパレルの工業生産における各業務について理解し、分業体制で責任感を持った行動を取ることができるようになること、分業体制における情報伝達の工夫や努力ができるようになることを目標とする。  |   |     | ○        |     | ◎        |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEA3450 | アパレル生産実習B     | 3   | アパレル産業のあり方、縫製工場の問題点・改善試案、作業改善の進め方、関連部署へのコミュニケーションのあり方等について自らの見解を確立する能力を養成する。   | 生産工程全般と分業体制でのコミュニケーションの取り方などについて常に問題意識を持ち、その改善方法に対して自らの見解を持った上で積極的に行動できるようにすること。また、管理者としての視点も理解できるようにすること。   |   |     | ○        |     | ◎        |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEA3440 | アパレルコンピュータ実習  | 3   | 近年のアパレル業界では、パターン設計用のCADシステムの利用は不可欠である。アパレルCADシステムを使用した衣服パターンメイキング技能を身につけ、応用する能力を養う。  | アパレル業界におけるコンピュータの活用方法を理解し、CADシステムを用いたパターンメイキング、グレーディング、マーキングの操作をすることができる。基礎的なパターンメイキング操作を習得し、更にパターンの展開、工業用フルパターン作成、グレーディング展開、サイズ組み合わせマーキングまでを行う能力を身につける。 |   |     | ○        |     | ◎        |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEA3230 | V M D 演 習     | 3   | ファッションビジネスにおいて、VMD（ヴィジュアルマーチャндаイジング）の果たす役割は重要である。そこで、商品である洋服の知識を深め、店頭でのVMDの考え方や表現方法（ディスプレイ）を学び、商品構成、発想力、表現力、計画性、チームワーク等のスキルを身につける。  | ファッションビジネスの現場で、VMDに関して、実践的に活用できる能力を身につけることを目標とする。  |   |     | ○        |     | ◎        |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEA4410 | 創作デザイン実習      | 4   | 各自のオリジナルによる衣服の制作を目的とする。  | 3年間アパレルコースで修得してきた基礎的な知識・技術を、学習成果の集大成として各自テーマに沿ったオリジナルデザインに応用発展させ、創作できる力を身に付けることを到達目標とする。   |   |     | ○        |     | ◎        |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEA3510 | インテリアテキスタイル概論 | 3   | 我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身に付け、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。  | 我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身に付け、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。                          |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |  |           |   |  |   |
|------------|------------|-----|--|--|---|-----|----------|-----|----------|--|-----------|---|--|---|
|            |            |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |  |           |   |  |   |
|            |            |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |   |  |   |
| 1-1        | 1-2        | 1-3 | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |  |           |   |  |   |
| 17UHEA4620 | 住宅・インテリア設計 | 4   | 生活行為の総体としての住空間の機能的側面と基本的な設計プロセスを学んだ上で、複合的な住環境を立案する能力を育成する。   | 「住もう」という行為に関連する身近な社会的問題（高齢化、エコロジー、ライフスタイルの変化、コミュニティの喪失など）や周辺環境に呼応する住空間を提案する力を習得する。 |   | ○   |          |     | ◎        |  | ◎         |   |  |   |
| 17UHEA4640 | 建築法規       | 4   | 秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。                              | 都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。                | ◎   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |
| 17UHEA4520 | 都市デザイン論    | 4   | 日常生活や企業活動の舞台となる都市空間の構成、制度的枠組み、デザイン手法などについて、とりわけ個々の建築物と都市空間との相互関係について理解を深めること。  | 都市とは何か、そのデザインとは何かを理解する。  | ◎   |     |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |
| 17UHEA4550 | 測量実習       | 4   | 測量は、家作り、街作りの様々な分野で使われており、建築では設計、施工、維持管理の各段階で出会う。そこで測量を講義、実習を通して基礎から体系的に学び、また都市計画・防災・マーケティング等の分野に使われているGIS（地理情報システム）や衛星画像を用いたりリモートセンシングについても習得することを目的とする。 | 学生が測量器械で得たデータのパソコン解析・GIS・リモートセンシングなどを通して、建築・都市計画に必要な測量基礎の知識および技術とその利活用法を習得する。      |   |     |          |     |          |  |           | ◎ |  | ◎ |
| 17UHEA4560 | 構造力学 I     | 4   | 建築物の設計において最も基礎となる、構造物の力学に関する理論を基礎から体系的に理解する。   | 建築設計における力学的な考え方の基礎を習得する。   |   | ◎   |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |
| 17UHEA4570 | 構造力学 I 演習  | 4   | 「構造力学 I」で習得する構造物の力学に関する理論を、例題の解説と演習問題を解くことでより深く理解する。   | 建築設計において必要な力学的な考え方を習得するための演習問題を自力で解けること。   |   | ○   |          |     | ◎        |  | ◎         |   |  |   |
| 17UHEA4540 | 建築一般構造 I   | 4   | 3つの主要な構造（木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造）を中心に建築物の骨組みや仕上げの構成について基本的な知識を習得する。  | 建築に関する用語を学び、建築全般に対して幅広く理解する。   |   | ◎   |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |
| 17UHEA4630 | 建築材料学      | 4   | 建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。   | 建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。                                       |   | ◎   |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |
| 17UHEA3540 | 建築施工       | 3   | 住宅工事の発注から完成に至るまでの、各段階の内容について、そのあらましを解説し、一連の住宅施工の流れを理解する。   | 住宅建築（主に木造・鉄筋コンクリート造）に関する、企画～施工～竣工～維持管理までの流れおよび管理ポイントについて理解させる。                     |   | ◎   |          |     |          |  | ◎         |   |  |   |

| 科目番号       | 科目名        | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |  |          |   |           |   |   |  |  |  |  |  |   |
|------------|------------|-----|---|--|---|-----|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|---|--|--|--|--|--|---|
|            |            |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |  |          |   |           |   |   |  |  |  |  |  |   |
|            |            |     |   |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |   |  |  |  |  |  |   |
| 1-1        | 1-2        | 1-3 | 2-1   | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |   |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEA2110 | 人間工学       | 2   | 本授業の目標は、私達が日常生活して行く上で最も身近な道具や設備、環境等と人間との間に存在する諸条件を学び、それらの関係がより適正に結びつく条件を導き出すことにある。さらに、消費者としてモノ選びの際に、人間工学の視点から人とモノとの関係を正しく見つめる能力を養う。 | 人間工学の視点からデザインでき、更に消費者として適切なモノを選ぶことができる。  |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |   |   |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEA4140 | 環境工学       | 4   | 室内環境を人間の心理生理から捉えるとともに、快適で機能的な住まいのあり方を理解する。  | 住まいの計画にあたり重要となる環境工学の考え方を理解することを目標とする。  |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |   |   |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEA4610 | 建築設備       | 4   | 建築内部とその近傍の環境を適切に整え、建築内部の人間の活動を支援する建築設備について、その原理や構成を理解する。  | 建築において、メカニカルな方式や自然を活用する方式などを用いて室内環境を整える種々の方法とその原理についての知識を習得することを目標とする。                         |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |   |   |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEA2020 | 海外の生活環境研修Ⅱ | 2   | 国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身に付けることは必至である。本科目では、ヨーロッパでの建築やインテリアおよびファッションの研修に加えてヨーロッパ諸国の歴史や生活文化に触れて国際的な知識・感覚を深めることを目的とする。                  | グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。 |   |     |     |          |  |          |   |           |   |   |  |  |  |  |  | ◎ |
| 17UHEA3910 | 卒業基礎演習     | 3   | 4年次の卒業研究を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。  | 卒業研究の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。  |   |     |     |          |  |          | ◎ | ◎         | ◎ | ◎ |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEA4910 | 卒業研究       | 4   | 大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。   | 情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身に付ける。  |   |     |     |          |  |          | ◎ | ◎         | ◎ | ◎ |  |  |  |  |  |   |

# 平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【生活環境学科】

【建築デザインコース】

| 科目番号       | 科目名      | 学年  | 科目目的  | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |  |           |  |  |  |  |  |  |   |
|------------|----------|-----|---|--|---|-----|----------|-----|----------|--|-----------|--|--|--|--|--|--|---|
|            |          |     |   |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |  |           |  |  |  |  |  |  |   |
|            |          |     |   |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |  |  |  |  |   |
| 1-1        | 1-2      | 1-3 | 2-1   | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |  |           |  |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK2010 | 生活環境英語Ⅰ  | 2   | 英語で書かれた生活環境学に関する専門書、広告、新聞、雑誌などの内容を理解できる能力やコンピュータ関連の基礎英語力を養うため、平易な教材を用いて、語彙を増やしながらか、英語に慣れ、努力すれば和訳が確実にできる力を修得することを目指す。            | 学生は以下の3点の目標達成に取り組む。<br>1. 専門領域の英文記事を理解するために必要な語学力を強化する。<br>2. 専門領域に関する通信などに対応するための英文構成の基礎を確認する。<br>3. グローバルな視点とは何か、認識を深める。 |   |     |          |     |          |  |           |  |  |  |  |  |  | ◎ |
| 17UHEK2030 | 生活環境英語Ⅱ  | 2   | 英語で書かれた様々な文章を読むことにより、総合的な読解力を養うことを目的とする。語彙や表現方法を増やし、英文の構造について理解するとともに、日本と英語圏の文化的背景や生活観の相違などについての考察も行う。                          | 論説、記事、小説、論文などの様々なジャンルの英文について、どのような概要が書かれているか一読して把握できる読解力を養うことを目的とする。   |   |     |          |     |          |  |           |  |  |  |  |  |  | ◎ |
| 17UHEK3130 | 福祉生活環境概論 | 3   | 高齢者が慣れた生活環境で住み続け人間的な自立生活を送るために、住環境の整備が今や社会全体の課題となってきた。本講では生活者の視点に立ってあらゆる人達の暮らしを生活の拠点としての住環境という側面から取り上げ、安全・安心で健康的な住環境のあり方について学ぶ。 | 安全・安心で健康的な人間らしい自立生活が送れる環境づくりを考える能力を養う。   |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |  |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK2130 | 色彩学      | 2   | 色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。  | 色と光を科学的に捉える力をつける。日常的な生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および、表色値から色を想像できるようになることが到達目標である。                                    |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |  |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK4410 | 日本服飾史    | 4   | 日本における古代から現代までの服飾の様式と特徴を理解する。服飾の歴史は人間の生活の歴史でもあるため、衣服という身近な存在をとおして、自分がどのような文化的背景をもっているかを学び、人間の生活の理解を深める。                         | 服飾の歴史を学ぶことによって、日本社会の特徴や文化的な特質について理解を深める。また、文字資料や図像資料の扱いを学び、資料の検索や収集の方法を身につける。  |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |  |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK2520 | 世界建築史    | 2   | 世界の建築について、その時代、地域の特色と、時間的な展開（歴史）や空間的な拡がり（地理）の概要を理解することを目的とする。   | それぞれの地域や時代による構造や意匠の特徴、あるいはそれらの共通点について理解する。   |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |  |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK2650 | 日本建築史    | 2   | 日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特色について理解することを目的とする。  | 日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。   |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |  |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK3540 | 現代建築論    | 3   | 伝統と新しさ、生活ともの、行為と形態など多角的視点から、建築をめぐる空間表現についての考えを深める。  | 美が人を感動させる「目的」を持っているとすると、機能と美の境界線はどこにあるのだろう。また、人の生活と、ものや建築が調和しているとはどういうことだろう。   |   |     | ◎        |     |          |  | ◎         |  |  |  |  |  |  |   |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的  | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |   |           |  |  |  |
|------------|---------------|-----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|--|--|--|
|            |               |     |   |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |   |           |  |  |  |
|            |               |     |   |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 1-3 | 2-1   | 2-2   | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |   |           |  |  |  |
| 17UHEK2560 | 景 観 論         | 2   | 景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を習得すること。また日本各地や世界各国の景観や街並みを紹介していくことで、建築物だけでなく都市環境のデザインや街づくりへ視野を広げる。   | 風景、景色、景観という視点から生活や建築を理解できるようにする。  | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHEK3650 | ま ち づ くり 論    | 3   | 「まちづくり」は、近年、市民や地域も主体となって参画・連携する意義が増してきている。しかし、それぞれの「まち」の特性や状況によってその取り組みはさまざまであり、「まちづくり」はまずその「まち」を知ることが重要であるといえる。本授業では、まちづくりとは何かを習得するとともにその理解を深め、まちづくりを実践し得る力を養うことを目標とする。          | まちづくりの意義を理解し、まちづくりを実践し得るスキルを身につける。  | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHEK2120 | 生 活 学 方 法     | 2   | 「まち」は重要な生活基盤である。まちを対象に調査し考察することで、自身を取り巻く生活環境を把握し読み解く力を養成する。   | まちの情報の収集、整理、分析、評価に必要な技術を習得することを目標とする。   | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHEK4150 | 生 活 デ ザ イ ン 論 | 4   | 学生は講義を通じて、生活を営む上で必要な要素としてのモノ・行為を取り出すとともに、それらを可能にする生活デザインの特性と機能について考える。  | 学生は講義を通じて次の2つの目標到達に取り組む。<br>1. 学生はモノ（ものづくり）のデザインとコト（仕組み）のデザインが生活の中で果たす役割を知る。<br>2. そのうえ、優れたデザインの特徴とは何かを考え、生活デザインの企画実践につなげる基本的素養とする。 |   |     | ◎        |     |          |   | ◎         |  |  |  |
| 17UHEK3110 | 生 活 美 学       | 3   | 日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。                         | 総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。           | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |  |
| 17UHEK4110 | 家 庭 工 学       | 4   | 家庭工学とは、家庭において工業技術の恩恵を受けている事やものを対象とした科目である。我々は、様々な道具や機械によって快適な家庭生活を送ることができている。それらを正しく、有効に使えるよう、原理から学び、機械類に強くなることをめざす。本科目は、高校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 家庭で使われる電気や機械や道具に関して、原理や意味を把握して使えるようになることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。   |   | ◎   |          |     |          |   | ◎         |  |  |  |





| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |  |          |   |           |   |  |  |
|------------|---------------|-----|--|--|---|-----|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|--|--|
|            |               |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |  |          |   |           |   |  |  |
|            |               |     |  |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |  | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |   |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 1-3 | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1 | 4-2      |  |          |   |           |   |  |  |
| 17UHEK4310 | 織 維 学         | 4   | 衣服素材である繊維がデザインや被服の機能に与える影響は大きい。快適な衣生活のためには、繊維素材の種類や性能を理解し、使用目的にあった素材の選択が出来る教養を身につけ、制作、取り扱いなどに役立つ幅広い資質を養う。  | 衣服を構成している素材である“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、実生活の中で役立たせることを目標としている。  |   | ◎   |     |          |  |          | ◎ |           |   |  |  |
| 17UHEK2310 | 織 維 製 品 材 料 学 | 2   | 被服やインテリア製品に要求される消費性能を把握し、糸、布、その他の被服材料に関して、製造プロセス、性能などの基礎的知識を取得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。                                   | 繊維製品の織物や編み物、その他二次製品の組織や物理的性能を理解し、適材適所に応じて活用が出来る能力を養い、無駄な消費を慎み、豊かで快適な生活が送れることに寄与することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。       |   | ◎   |     |          |  |          |   | ◎         |   |  |  |
| 17UHEK4340 | 衣 環 境 学       | 4   | 衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものである。ここでは、温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とする。  | 人はなぜ衣服を着るのか。衣服に何を求めるのか。若い女性にとっては特に、色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。ここでは、衣服を人間の最も身近な環境として捕らえ、心地よい衣服を考え、衣生活において実践できる能力を育成することを目標とする。 |   | ◎   |     |          |  |          |   | ◎         |   |  |  |
| 17UHEK4330 | 染 色 加 工 学     | 4   | テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。 | なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。   |   | ◎   |     |          |  |          |   | ◎         |   |  |  |
| 17UHEK4370 | 衣 料 分 析 法     | 4   | 身の回りにある衣料品は、性能を向上させるため改良改質され、さまざまな試験に合格したものである。その過程においても顧客からのクレーム処理においても、迅速・正確な分析が必要とされている。汎用の分析機器全般について理解力と応用力を養成することを目的とする。                                    | 科学的見地からクレーム処理、商品開発を担い得る基礎学力とデータの解析力を身につけることを目標とする。   |   | ◎   |     |          |  |          |   | ◎         |   |  |  |
| 17UHEK4350 | 新 機 能 材 料 学   | 4   | 生活環境の快適性や利便性の向上のため、最近いろいろな機能性材料が開発され生活の場での利用が進んでいる。これらの機能性材料の創製の歴史や背景、機能の有用性について理解することを目的とする。  | 新しい発想によるモノづくりや、より高度な応用力を培うことを目標とする。  |   | ◎   |     |          |  |          |   | ◎         |   |  |  |
| 17UHEK4420 | アパレル設計生産論     | 4   | 量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。   | 既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。  |   |     |     | ◎        |  |          |   |           | ◎ |  |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標  | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |  |           |  |  |
|------------|---------------|-----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|--|-----------|--|--|
|            |               |     |  |   | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |  |           |  |  |
|            |               |     |  |   | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |  | 4. 態度・志向性 |  |  |
| 1-1        | 1-2           | 1-3 | 2-1  | 2-2   | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |  |           |  |  |
| 17UHEK3310 | インテリアテキスタイル概論 | 3   | 我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身に付け、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。  | 我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身に付け、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。 |   | ◎   |          |     | ◎        |  |           |  |  |
| 17UHEK2510 | 建築造形演習        | 2   | 美しい形態を造形する方法を習得する。   | 基礎造形実習で学習・実習したことを基本として、これを発展させ、建築の構成要素（エレメント）をテーマに、美しい建築形態を造形することを実習する。   |   |     | ○        |     | ◎        |  | ◎         |  |  |
| 17UHEK2610 | 建築・インテリア設計Ⅰ   | 2   | 生活行為のベースとなる空間の構成手法を学び、それらの設計条件の整理、エスキス、製図、模型表現を通じて、基本的な建築設計のプロセスを習得する。同時に、人体や物品の寸法、各室の機能、空間の関係、外部と内部、プライベートとパブリックといった個別のテーマを踏まえた設計力を育成する。  | 立地条件からライフスタイルなど様々な設計条件を分析し、核として設定した生活行為を支える建築空間からインテリアエレメントまでを、トータルに構想・立案する力を習得する。  |   | ○   |          |     | ◎        |  | ◎         |  |  |
| 17UHEK3510 | 建築・インテリア設計Ⅱ   | 3   | 保育園のインテリア・家具のデザインを通じて、内部での人の身体・動作とインテリア・家具との関連等を配慮した設計能力を習得する。   | 自らの設計した、保育園のコンセプトや意図に基づき、インテリアや家具までデザインをコントロールする。   |   | ○   |          |     | ◎        |  | ◎         |  |  |
| 17UHEK3610 | 都市・建築設計       | 3   | 日常生活に密着している公共建築物を設計する手法を習得する。  | 公共建築物の設計を通じて、その設計手法を習得するとともに、建築の都市との関連、都市および建築における公共性について把握する。  |   | ○   |          |     | ◎        |  | ◎         |  |  |
| 17UHEK4510 | 自由課題設計        | 4   | 建築設計は住宅に始まり住宅に終わると言われる。最終学年の最終課題として、生活環境の原点でもある住宅の設計を行う。   | これまでに学んだ建築設計の様々な考え方、デザイン手法を住空間の創造行為を通して統合、表現することを本課題の目標とする。   |   | ○   |          |     | ◎        |  | ◎         |  |  |
| 17UHEK2570 | 建築CAD実習       | 2   | 設計製図の基本は、鉛筆と定規を使って紙の上に美しく、力強い線を描くことである。コンピュータを使って設計をすることが主流の現在でもこのことを忘れてはいけない。CADに使われるのではなく、CADを自分の利用目的にあわせてうまく使いこなせるようになることが目標である。本科目は、高校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 2次元CAD機能を使い、設計図書（平面図、立面図、断面図など）が自由に描けるようになることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。                                |   | ○   |          |     | ◎        |  | ◎         |  |  |
| 17UHEK2620 | 建築計画学Ⅰ        | 2   | 住宅・集合住宅を設計する上で必要となる事項を学習する。  | 住宅・集合住宅を中心として、建築計画上で重要となる物の寸法の決定要因や平面計画・動線計画の技法、そしてその背景となる考え方などを習得することを目標とする。   |   | ◎   |          |     |          |  | ◎         |  |  |
| 17UHEK3520 | 建築計画学Ⅱ        | 3   | 建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは学校・商業施設・宿泊施設・オフィス等の計画理論について学ぶ。   | 住宅以外で一般の人々に比較的なじみが深い学校・商業施設・ホテル・事務所建築などを計画する上で必要となる建築上の特徴的な事項について修得することを目標とする。  |   | ◎   |          |     |          |  | ◎         |  |  |

| 科目番号       | 科目名           | 学年  | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |          |     |          |   |           |  |  |   |
|------------|---------------|-----|--|--|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|--|--|---|
|            |               |     |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |          |     |          |   |           |  |  |   |
|            |               |     |  |  | 1. 知識・理解  |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |   | 4. 態度・志向性 |  |  |   |
| 1-1        | 1-2           | 1-3 | 2-1  | 2-2  | 3-1   | 3-2 | 4-1      | 4-2 |          |   |           |  |  |   |
| 17UHEK3640 | 建築法規          | 3   | 秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。                              | 都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。            | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |
| 17UHEK3550 | 都市デザイン論       | 3   | 日常生活や企業活動の舞台となる都市空間の構成、制度的枠組み、デザイン手法などについて、とりわけ個々の建築物と都市空間との相互関係について理解を深めること。  | 都市とは何か、そのデザインとは何かを理解する。  | ◎   |     |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |
| 17UHEK3660 | フィールド・サーヴェイ実習 | 3   | 積極的に街へ出かけ、フィールドワークを行うために、その技法や方法と、その時に必要となる基本的な考え方について講義する。  | 方向感覚が研ぎ澄まされ、地図なしでどこでも簡単に歩けるようになる。  |   |     |          |     | ◎        | ◎ |           |  |  | ○ |
| 17UHEK3560 | 造園学・同演習       | 3   | 世界的にも評価の高い日本庭園という芸術の裏に秘められた深い思想と実用性を理解し、現代における環境共生デザインへの応用を試みる。  | 造園計画・設計の基本を身につける。デザイン批評をする目を養う。コンセプトを明解に伝えるプレゼンテーション技術と文章力を身につける。              |   |     |          |     | ◎        | ◎ |           |  |  |   |
| 17UHEK4520 | 測量実習          | 4   | 測量は、家作り、街作りの様々な分野で使われており、建築では設計、施工、維持管理の各段階で出会う。そこで測量を講義、実習を通して基礎から体系的に学び、また都市計画・防災・マーケティング等の分野に使われているGIS（地理情報システム）や衛星画像を用いたりリモートセンシングについても習得することを目的とする。 | 学生が測量器械で得たデータのパソコン解析・GIS・リモートセンシングなどを通して、建築・都市計画に必要な測量基礎的知識および技術とその利活用法を習得する。  |   |     |          |     | ◎        | ◎ |           |  |  |   |
| 17UHEK2530 | 構造力学Ⅰ         | 2   | 建築物の設計において最も基礎となる、構造物の力学に関する理論を基礎から体系的に理解する。   | 建築設計における力学的な考え方の基礎を習得する。   |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |
| 17UHEK2540 | 構造力学Ⅰ演習       | 2   | 「構造力学Ⅰ」で習得する構造物の力学に関する理論を、例題の解説と演習問題を解くことでより深く理解する。  | 建築設計において必要な力学的な考え方を習得するための演習問題を自力で解けること。                                       |   | ○   |          |     | ◎        | ◎ |           |  |  |   |
| 17UHEK2630 | 構造力学Ⅱ         | 2   | 「構造力学Ⅰ」を基本とし、不静定構造物の解法を理解すると共に、「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学的特性を理解する。   | 実際の建築物に近い構造物モデルである、不静定構造物の断面力を求めることができること、および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の安全性の確認ができること。 |   | ◎   |          |     |          | ◎ |           |  |  |   |
| 17UHEK2640 | 構造力学Ⅱ演習       | 2   | 「構造力学Ⅱ」で習得する「不静定骨組みの応力解析法」について例題の解説や演習問題を解くことで、より深く理解し習得すること、および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学特性と部材断面算定手法を例題や演習問題を解くことでより深く理解し習得すること。                            | 例題や演習問題で解いた「不静定骨組み」の応力解析が自力で解けること。および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の断面の安全性の確認ができること。      |   | ○   |          |     | ◎        | ◎ |           |  |  |   |



| 科目番号       | 科目名        | 学年 | 科目目的   | 到達目標   | ディプロマ・ポリシーの項目番号                                       |     |     |          |     |          |     |           |     |  |  |  |  |  |   |
|------------|------------|----|--|--|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|--|--|--|--|---|
|            |            |    |  |  | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目<br>○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 |     |     |          |     |          |     |           |     |  |  |  |  |  |   |
|            |            |    |  |  | 1. 知識・理解  |     |     | 2. 技能・表現 |     | 3. 思考・判断 |     | 4. 態度・志向性 |     |  |  |  |  |  |   |
|            |            |    |  |  | 1-1   | 1-2 | 1-3 | 2-1      | 2-2 | 3-1      | 3-2 | 4-1       | 4-2 |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK2020 | 海外の生活環境研修Ⅱ | 2  | 国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身に付けることは必至である。本科目では、ヨーロッパでの建築やインテリアおよびファッションの研修に加えてヨーロッパ諸国の歴史や生活文化に触れて国際的な知識・感覚を深めることを目的とする。 | グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。 |   |     |     |          |     |          |     |           |     |  |  |  |  |  | ◎ |
| 17UHEK3910 | 卒業基礎演習     | 3  | 4年次の卒業研究を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。   | 卒業研究の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。  |   |     |     |          |     | ◎        | ◎   | ◎         | ◎   |  |  |  |  |  |   |
| 17UHEK4910 | 卒業研究       | 4  | 大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。                        | 情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身に付ける。  |   |     |     |          |     | ◎        | ◎   | ◎         | ◎   |  |  |  |  |  |   |